かいはつ

題字 根石小 5年

23号

岡崎市特殊教育推進協議会　　平成２年11月16日発行

すがすがしい一日

細川小学校長
矢野達雄

十月二十四日、市内小学校特殊学級百二十五名の児童は、岡崎ライオンズクラブのご厚意で、名古屋市の東山動物園に招待していただき、楽しい一日を過ごした。

園内では、ライオンズの方々から弁当やおやつを頂き、担任の先生と共に「コアラが動いた」「スカイタワーから名古屋市が全部見えた」と大喜びする子どもたちの顔があちこちで見られた。

十五年間、このような素晴らしい招待をしてくださるライオンズの方々にお礼を申し上げた。その帰るバスの中でのことである。

バスガイドさんが、「前にこのバスに乗った子たちが、私の顔を書いてくれたけど。見たい。……でも、とってもへんな顔だよ。」と子どもたちに話しかけ、一枚ずつ見せ始めた。

このような時、ふざけて、「その顔はガイドさんにそっくり、本当はもっと悪い……」などの言葉を投げがちであるが、「そんなのガイドさんがかわいそう。」の声が車内に広がり、ふざけたことを言う子は全くいなかった。

やがて、「私がもっときれいに書いてあげる。」「私も、私も書いてあげる。」の声が聞かれた。

このようなことが自然に言えるのは、本当にすなおで、思いやりの心を持った子どもたちだ。なんと心のやさしい子どもたちだろう。

「ありがとうございました。さようなら。」と元気よく挨拶をし、そっと車中でガイドさんを可愛く書いた絵を手渡し、去って行く子を見送りながら、友達のない本校のA子が「あの子たちなら、友達になれそう。」とつぶやいた。思いやる心をもった多くの子どもたちに接することのできた社会見学は、すがすがしい一日であった。

と親の集い どう会

― 市内小中特殊学級連合 ―

㊧各校応援旗

㊦ぬいぐるみ(岡崎女子短大)の応援

第八回を迎える岡崎市特殊学級合同「子どもと親の集い運動会」が、九月十日(月)に、岡崎市体育館で開催されました。

普段の学校生活の中では、なかなか力を発揮する場の少ない児童・生徒たちが、活躍するよい機会にと催されてきています。今年も例年以上にいきいきとした子どもたちの顔でいっぱいでした。

開会式に先立って、多数の来賓や父兄の見守る中、各学校ごとに堂々の入場行進が行われ、盛大な拍手がわきおこりました。

開会式では、本会のテーマとなっている「子どもと親の集い運動会の歌」を梅園小の児童による指揮で、みんなで楽しく歌うこともでき、頑張ろうという雰囲気を盛り上げました。

来賓も参加しての「玉入れ」、一人ひとりの名前を結合する「かけっこ・徒競走」などの恒例の種目の他に、子どもたちの実態に合わせて毎年新たな演技が加わります。今年は、「インディージョーンズゲーム」と銘打った障害物競争や、四人一組となって手作りの救急車に乗り、病人に見立てた人形を病院に収容する「出動救急隊」などユニークなアイデアの演技も見られました。これらのゲームを四つのチームに別れて、子どもたちが競いあったり、親子一緒に力を合わせてのリレーで休憩などにお互いの作品を鑑賞する機会が設けられました。

「他の学校のお子さんの作品を見ることができ、とても参考になりました」などの意見も出されておりました。

本会は、毎年行なわれているので、他校の子供同士顔見知りになり「また来年会おうね」という声が聞こえてきます。父兄の方も含め交流の機会となっていることに喜びを感じます。

本年度は、父兄の方にも器具等招集の係をお手伝い頂き、みんなで作る運動会になったと感じております。ご協力に感謝致します。

矢北中　鳥井　裕之

子どもの声

六ッ美中　二年

徒競争があると思うと、とてもきんちょうしました。昨年はまだ中一でしたが今年は二年生です。ならんでみると、中一や中三の人たちと走ります。みんな強そうな人ばっかりでした。

前の人が走る用意をするときんちょうして足がふるえました。

スタートラインについて走りました。始めはあんなに落ちつかなかったのに、しぜんとからだが落ちつき力いっぱいに走りました。あともう少しでぬかされそうになったけど、一番でした。昨年も今年も一番だったから、とてもうれしかったです。

来年も、またこの運動会を楽しみにしています。

第8回子どもうん

たまいれ

プログラム
1. たいそう
2. たまいれ
3. かけっこ
4. 出動救急隊
5. かけっこ
6. インディージョーンズ
7. ドラゴンボール
8. 徒競走
9. 貨物列車出発

かけっこ

教師の声

梅園小　古沢美智子

『弘君や黒田君に久しぶりに逢えて、明弘もうれしかったと思います。きつねのぬいぐるみにもさわることができて、指了もしました。「六年生になったら運動会やる」と言っていました。来年の運動会を楽しみにしている様子で、うれしさが伝わってきました。今年の運動会が一番興味を示したような気がします。ぬいぐるみのせいかも……。』

九月十一日のお母さんからの連絡でした。今年で四回目となる明弘にとって、今年の運動会は特に強い印象で残ったようです。

子と親と先生とで作り上げていく「子どもと親の集い運動会」も今年で八年目をむかえ、年々増えるお客さまの暖かい声援の中で、子どもたちはのびのびと走りまわり、満足感や成就感を体いっぱい味わっています。

六名小　若原　和志

私は、この四月に新任として赴任したばかりなので、特殊学級はもちろん、親子運動会も初めての経験であった。六月からの準備も、ほとんど、運動会の実感のつかめないまま先生方についてなんとなくやってきた。当日も、一つずつ役割を確認しながらやっていた私であったが、終ってみて、一つの行事をやり遂げたという満足感に浸ることができた。あの日みた子どもたちの笑顔がうかんでくる。

私はこれといった仕事をした訳ではないが、このイベントのスタッフの一員となれたことに心から充実感をもつことができた。また、他校の先生方とも、かかわりがもてて、とても有意義だったようにも思われる。今度は自分の仕事にも成就感をもてるように、より積極的に参加したい。

出動救急隊

親の声

矢北中　父兄

「子どもと親の集い運動会」には初めての参加でしたが、とても楽しかったです。子供があんなに生き生きと先生のお手伝いができて、演技でも活躍している姿は初めて見ました。各学校での普通の運動会では見られないことです。そんな子供の姿を写真に納めておけばよかったと、後で気が付いたのですが、カメラを忘れたのでとても残念でした。

また、演技係のお手伝いをさせていただき、緊張しました。「玉入れ」の指揮なんて、幼稚園からも含めると八年間も見てきて、どんなことをするのか自分なりに分かっているつもりでした。しかし、いざ本番となると、何をどうやるのか分からなくなってしまい、先生に頼ってしまったところがありました。先生方が大変だったのがとてもよく分かりました。

来年も、もっと盛大になるよう期待しております。

インディージョーンズ

ドラゴンボール

市中学校特殊学級
進路指導委員会

三年目を迎えた委員会は、その活動をいっそう深まりのある、確かなものへと着実に進展させている。

中でも、夏休みにおける担当者事業所見学会は、職業安定所の紹介で二つの事業所を見学した。その後、卒業生の職場紹介をビデオにより視聴し、進路指導の検討会をした。話し合いでは、実際の仕事内容から事業所の求人条件、卒業後の職場定着指導にまで及び、内容のある会になった。

また、委員会の設立に伴い職業安定所との密接な関係がとれることにより、就職に関する情報が得やすくなったことは、年々その成果がでてきている。それは、第一に、卒業予定に対する職能判定（本年度から豊橋）が早くなり、夏休み前に、本人、保護者、担任と進路決定をほぼできるようになった。第二に、進路決定の際、就職を希望する生徒については、ほとんどの者が職場実習を夏休みに実施することができた。

以上、二点について、担当者としてうれしい成果があがっている。

春日台訓練校については、昨年九名の合格者があったが、今年は、三名の希望という状況であり、全員の合格が期待されている。

最後に、三学期に行われる事業所見学会（中学生・保護者対象）が、本年度も予定されている。昨年は、行政、法律に関する知識を深め、障害を持つ生徒の就職について、保護者、担任とも研修したが、今年は、より具体的な事例紹介を含めて研修できるような会にしようと計画している。

現場で働く卒業生

よい教師とは

矢作東小　藪田篤夫

特殊学級の担任になって、十八年有余になりました。されど、この道の難しさ、奥行きの深さにしばしばとまどいもあります。

教育は、児童・教師・父母の三者の信頼関係で成り立ち、特殊学級では特に、この絆が大切です。教師が信頼を得るには「よい教師」になることです。

◆児童に「良い教師とは」

教育者ニイルは、「最もよい教師とは子どもと共に笑う教師である。最もよくない教師とは子どもを笑う教師である。」と言い切っています。

「よい教師」を「共に笑う教師」と簡潔に定義づけをしています。これなら私にでもと、飛びつきましたが、日がたつとともにニイルの教育観の鋭さ深さに気付きました。「笑う」でも前と後の「笑う」には違いがあり、「笑う」とは楽しい活動があって生まれるもので教師は児童に楽しい時・場を提供しなければならない。これは大変な事で、教師は一工夫も二工夫も努力しなければなりません。

私は授業にはお土産を用意して臨むように心がけています。それが山蛭であったり、カラスウリなどの時もあります。それを学習で取りあげると児童は驚き、驚きが楽しさを引き出す起爆剤になる事を経験から知っているからです。

◆お母さん方に「よい教師とは」

ある教育誌で、お母さんの言葉として「よい教師とは」

一に心、二に体、三、四

がなくて五に頭脳とありました。二、三、四、五は分かりますが、一の心は色々と解釈ができます。

一日の学校生活が終わり、児童とお母さんが連れだって帰える時、お母さんの背中に一抹の淋しさを感じる時がたまにあります。我が子の成長のもどかしさ、一人立ちの長い日々、ふと心労が姿に現われるのではないでしょうか。教師もこの時、特殊教育の難しさ、自分の力不足をひしひしと感じます。

そして、いま大切なことは、お母さんのよき相談相手となって、本音で話し合う事であり、これができる教師がお母さん方にとって、「よい教師」と言えます。聞き上手は担任の重要な条件の一つです。

学級スナップ

野鳥の森で木の実拾い

竜美丘小　六の五

秋晴れの中近くの野鳥の森へ木の実を拾いに行く。「あったよ、ほら。」うれしそうに見せてくれる。せっせと小さなバケツやビニル袋にドングリ、松かさを入れていく。たくさんとって「自然の神様」、ブローチ、こま作りに使おうと、がんばって拾う。子供たちは「あっ、虫だ。」「この棒、ドラゴンZに使おう。」とすぐ遊びだす。「たくさんとれたら、休憩していいよ。」と言うと、ちょっとの間はがんばってとっていたが、すぐ棒を持ってドラゴンZの遊びを始めた。楽しそうだ。さあ、たくさん拾ったし帰るとするか。

ライオンズクラブ招待 社会見学 東山動物園

十月二十四日、前日の曇り空からは思いもよらない晴天のもとで、今年のライオンズクラブ招待社会見学が終わった。

今年から、内藤先生の後を継いで係になった私にとって、何をどうしてよいのかわからない事だらけの初仕事であった。案内のプリント作り、参加者の集約、バスの配車からおみやげの発注など内藤先生にアドバイスを受けたり、ライオンズや岡観の方と連絡をとり合いながらの毎日だ。当日は当日で、何か手落ちはなかったか、迷子やけが人は出ないだろうかとハラハラし通しであった。

何事も起こらず一日が過ぎ、やれやれと思いながら、何事もなく過ごすために、本当に多くの人達の努力や協力があったことを改めて感じていた。

数日後、ごあいさつにうかがった席で、「マンネリ化しないよう、より良い社会見学にしましょう。」と、ライオンズの都築会長の言葉に次回への意欲がわいてきた。

広幡小　山田　哲也

矢北小３年

どうぶつがいっぱい

羽根小三年

ライオンズのえんそくでどうぶつえんにいきました。三ばんのバスにのっていきました。おかあさんもいっしょです。

おかしとおべんとうをもらいました。スカイタワーにのってたかいところまでいきました。

ヘビとワニをみました。こわかったです。ライオンが、ウォーといっていました。コアラもみました。木にのっておひるねしていました。おしりがまっかなサルがいました。ぞうもみました。とても大きかったです。

おみやげをいっぱいもらいました。サインペンとおりがみとらくがきちょうでした。

ライオンズのおじさん、ありがとうございました。

わたしは、とてもたのしかったです。

東山スカイタワー

矢東小　二年

ぼくは、ライオンズしゃかいけんがくで東山どうぶつえんにいきました。

みんなで、一ばんはじめに、東山スカイタワーにのぼりました。いりぐちからはいって、エスカレーターにのりました。ぎゅうぎゅうになってのったよ。

ぐんぐんあがっていきました。てんぼうだいについてから、とてもこわくなったよ。テレビとうがみえた。いっぱいいえやそらがみえた。ガラスのちかくにいったらおちそうになったとおもったよ。どうしよう。こわいようといいました。

市就学指導委員会から

岡崎市に、この就学指導委員会のシステムが根付き、就学児を中心に、毎年百十名を越す子どもたちの相談や、その何倍もの対象の在学児についての審議がなされています。

保護者の方と共に、「この子にとって一番適した教育の場を考える」組織です。

見学会や説明会、相談会を持ち、医療、教育、行政といった各立場からの意見を反映させて、子どもたちの適性就学のために討議を重ね判定していくわけです。

委員として、専門医、大学教授、市の福祉関係者、児童相談所、特殊学校の代表者、教育委員会、学校関係者が大勢参加していただけ、万全を期しています。今年度も慎重かつ着実にをモットーに進めていきたいと思います。

夏季自主研修会

延期に見舞われた今年の夏休みの半ば、八月十一日～十二日にかけて特殊教育部の夏季自主研修会が行われました。今年で四回目を数え、恒例となった本会にたくさんの先生方が参加され盛り上がりをみせました。

今年は、愛知教育大学教授の竹内清先生と前安城養護学校校長の伊藤敏孝先生をお迎えし素晴らしい講演をして頂きました。竹内先生は、子供の描いた絵を提示しながら、各年齢層の発達状況に照らし合わせた無理のない指導の必要性を力説されました。伊藤先生からは、長年にわたる特殊教育に携わった経験の中から貴重なお話を伺うことができました。筋ジストロフィーや重度重複障害児など多くの事例を交えてのお話で、聞き入る者の涙を誘うものでした。

第二部の懇親会も含め、研修と親睦を深めることができました。

特殊学級児らと十一年

金田まさ子

私が特殊学級の担任として在職したのは十一年間です。一口に十一年間というと、随分長い年月ですが、過ぎ去ってみれば非常に短く早く感じられます。根石小学校で九年、山中小学校で一年間お世話になり退職しました。その間、担任した児童は延十四名でした。

今では、すでに社会へ巣立ち元気に勤めている子も二人います。

担任になった当初は、戸惑いと自信のなさから悩みの連続でした。

とにかく、やってみよう。この子たちの中に飛び込んで、打ちとけた雰囲気づくりの中でがんばってみようと思いました。

子どもたちの学習の様子、遊びの様子から、通常学級児にくらべて欠けているところは多いけれど反面、素直さ、明るさ等、良い面を知ることができました。そこで実態から、楽しい学習、遊びを通して日常生活に必要な基礎的生活習慣を身につけ進んで仕事をしようとする態度を育てること、父兄の協力を得て家庭生活や学級、学校、地域社会における集団生活に参加できる能力や態度を養うことなどを、ねらいの第一としました。

国語の学習では、子どもの生活に密着した絵本を教材として取り上げ、読み聞かせを通して、まねっこ遊び等の動作化をしながら日常生活に関連の深いことばを覚えさせるようにしました。また、絵本の内容をとり入れたカルタ遊びも人気があり効果があったように思いました。

作業の時間には、学校花壇の世話や野菜づくりに一緒になって汗を流して根気強さを身につけるようがんばらせました。

秋空のもと、校庭で紅葉したナンキンハゼ、モミジ等の落ち葉を拾い、しおりをつくって作品展で子どもたちに販売させました。その収益で小麦粉を買い、農園で収穫した小豆でおしるこを作り、舌づつみをうったこと、買い物学習での生き生きとした姿は、忘れることはできません。

その他、学校行事に参加して失敗をしながらも、通常学級児に助けられがんばり通し、満足感に満ちた顔、等々、十一年間、子どもたちとのふれ合いの中での思い出は尽きません。もっと、ああしてやればよかった、こうすべきだったと悔いが残ります。

子どもたちは、教師の言葉のみでは動かない。その子どもになり切って、体全体を使って働きかけるとき、なんらかの反応をしめしてくれる。根気強く、辛抱するとともに、あの手、この手と可能な限り努力を傾け続けるとき、子どもの心の通じ合いができるものだ。との教訓を得ました。

今後、この子らが生き生きとして、生きがいのある日々が過ごせるよう成長してくれることを心より願っています。

しおり販売をする子どもたち

東海北陸特殊教育富山大会に参加して

六ツ美南部小　稲垣美知夫

十月四日から六日まで県外研修として参加、第二日め分科会会場堀川中学校で公開授業を参観した。生活単元「民話劇をしよう」を富山市内の中学校数校の交流による授業であった。同じような能力を持った子ども同士の交流の場は、企画や連絡にも一人ひとりが参加することが可能である。また、自分達で成し遂げたいという成就感を味わわせることが出来ることから他校との交流を試みてこられた。

授業の中で子どもたちが自分自身の学習の目標を持ち、意識して学習している姿を見て、すばらしいの一語につきると思った。

A子は大きな声でセリフを発表するという目標に向かって力一杯頑張っていた。B男は登場人物の気持ちになってセリフのいいまわしや動作をするという目標に向かって頑張っていた。

子どもたちが持てる力を最大限に発揮し、一生懸命に満じる姿に接しこれこそ「生きがいを育てる教育」そのものではと思った。

映画鑑賞会

『グレムリン2』ってこわくておもしろいね

筒井興業さんからの御招待をいただき、九月後半から、グランド劇場での鑑賞会が持てました。

市内の特殊学級に学ぶ小中学生や保護者と教師の三百余名が参加。

今年は『グレムリン2』です。かわいいギズモや不気味なグレムリンに、笑ったりはらはらしたりの一時間でした。

六名小　5年

交通機関利用、昼食会、市役所見学の学習、さらに、他校との交流会といった工夫がされ、有意義に実施できたという学校の声も多く出ています。

各校とも、感謝の意をこめて、絵や作文をかき上げました。

もう四年目の映画鑑賞会、子どもたちの生活に生きています。